

函館工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	コミュニケーション日本語 I
科目基礎情報					
科目番号	0010		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	物質環境工学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	1	
教科書/教材	基礎からの国語表現の実践 2訂版 (明治書院) 新総合図説国語 (東京書籍)、国語辞典、漢和辞典				
担当教員	泊 功, 鳴海 雅哉				
到達目標					
1.漢字や慣用語・ことわざなどの語彙を豊かにし、表記の基本を身につけることができる。 2.文章表現のための基礎となる語法、表現法を理解することができる。 3.様々な目的・種類の実用的・論理的な基本の文章を書くことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	文章表現のために必要な語彙と表記を習得し、それを使いこなすことができる。	基本的な語彙と表記を習得し、言葉を豊富にしようとする意識を持つことができる。	基本的な語彙と表記を習得できず、言葉を豊富にしようとする意識も持つことができない。		
評価項目2	文章表現のための語法・表現法を身に付け、実践的にそれらを活用することができる。	文章表現に必要な語法・表現法を理解し、それらを活用しようとする努力することができる。	文章表現に必要な語法・表現法を理解できず、それらを活用しようとする意識も持つことができない。		
評価項目3	様々な種類と目的に応じて、適切な内容のわかりやすい文章を書くことができる。	目的に沿った文章の書き方の基本を理解し、それを念頭において書くことができる。	目的に沿った文章の書き方の基本を理解できず、また、それを念頭において書くこともできない。		
学科の到達目標項目との関係					
函館高専教育目標 E					
教育方法等					
概要	日本語表現の基礎となる語彙、表記、語法、表現技法などを課題に取り組みながら学ぶとともに、実際の作文演習を通して、実践的な文章表現力の基本を養うのがこの科目である。前半は語彙、表記、語法、表現技法などについて問題を解きながら習得し、後半は様々な設定での作文演習が中心となる。ポイントポイントで提出物の課題を課し評価に組み入れる。中間試験は実施せず期末試験で評価する。				
授業の進め方・方法	※本授業は第4クォーターで実施し、1コマ(90分)あたりの授業は、下記の2週分の進度となることに注意すること。テキストの問題を解きながら言葉や表現方法などを学んでゆく。授業時間が少ないので、前時に次の時間に扱う部分を宿題として課すので、必ず授業の前までに仕上げておくこと。 期末試験はそれらから多くが出題されるので、解答をしっかりと聞き、間違いは必ず直して、身に付くまで繰り返し復習すること。半ば以降の授業は、作文の演習が中心で、短い文から徐々に長い文章(原稿用紙800字程度)、また手紙・メールなどの実用文が書けるように練習する。提出課題の評価割合も多いので期日を守って丁寧に仕上げること。 書く力のもとになる漢字力・語彙力の習得は、日常的に行うことが大切であり、授業以外にもあらゆる生活の場で身に付けるよう努力すること。また、書く力を養うためには、日頃から読書をしたり、新聞を読んだりすることが大変有効である。是非、心掛けてほしい。 なお、授業への参加姿勢に問題がある場合には、減点の対象となるので注意すること。				
注意点	基本的にはテキストの問題を解きながら言葉や表現方法などを学んでゆく。期末試験はそれらから多くが出題されるので、解答をしっかりと聞き、間違いは必ず直して、身に付くまで繰り返し復習すること。半ば以降の授業は、作文の演習が中心で、短い文から徐々に本格的な文章が書けるように練習する。書く力のもとになる漢字力・語彙力の習得は、日常的に行うことが大切であり、授業以外にもあらゆる生活の場で身に付けるよう努力すること。また、書く力を養うためには、日頃から読書をしたり、新聞を読んだりすることが大変有効である。是非、心掛けてほしい。 なお、授業への参加姿勢に問題がある場合には、減点の対象となるので注意すること。 ※本科目は学修単位(1単位)の授業であるため、履修時間は授業時間15時間と授業時間以外の学修(予習・復習、課題・テスト等のための学修)を併せて45時間である。自学自習の成果は課題によって評価する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
	8週				
	4thQ	9週	ガイダンス、仮名遣い 類義語、慣用的な表現	・教科の目標および授業概要や評価について理解できる。また日本語の正しい仮名遣いができる。 ・語句の正確な意味を理解し、使える言葉を豊富にすることができる。	
		10週	正しい敬語 文脈の乱れ、推敲、原稿用紙の使い方 簡潔な文(文を短くする)	・正しい敬語の種類、用法を知り、表現できる。 ・文の係り受け、推敲、原稿用紙の正しい書き方を理解することができる。 ・簡潔な文の書き方を理解できる。	
11週		指示・接続の関係、的確な表現 文体を意識する、文の役割を知る	・指示語・接続語を正しく使うことができる。 ・場合と立場をわきまえて文体を書き分けられる。事実と意見を書き分けられる。		

		12週	接続詞の使い方を知る 要約でトピックセンテンスを学ぶ 段落に分けて書く	<ul style="list-style-type: none"> 前後の文で、論理的に適切な接続詞を使うことができる。 要約の仕方がわかる 文章構成を考えて、文章を適切な段落に分けることができる。
		13週	実践①主題、構成を考えてみる実践 ②主題分析、構想表を作ってみる。	<ul style="list-style-type: none"> テーマに合った文章の題、構成を考えることができる。 主題に基づき、材料を集めるための方法を理解することができる。
		14週	実践③構想表を基に文章を書いてみる。 実用的文章を書く④自己アピール文	<ul style="list-style-type: none"> 筋道の通った論証の仕方および論の構成、展開の仕方を理解することができる。 目的に即した実用的文章を書くことができる。
		15週	期末試験	
		16週	答案返却 (50分)	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	提出物	合計
総合評価割合	50	0	0	0	0	50	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	50	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0